

アライグマ対策で知っておくべき 3つのカギ🔑



(国研)農研機構中央農業研究センター鳥獣害グループ

* 本資料は令和元年度1月に行われた「令和元年度茨城県アライグマによる農作物被害状況及び対策に関する調査報告会」における講演内容を一部改変したものです。

主に行政担当者、生産者向けの内容です。

2021年3月公開

アライグマ被害対策で重要なこと

Plan 相手を知り、作戦を練る

↑本資料では、特にこの部分を紹介

Do 対策実行

Check 実行した対策を評価する

Action 改善策を考え、粘り強く継続する

アライグマ被害対策で重要なこと

Plan 相手を知り、作戦を練る

1. 外来種の何が問題かを理解する
→「3つのリスク」がある
2. なぜ、農作物被害が起こるのかを理解する
→「農作物＝動物の良い餌＝被害悪化の悪循環」
3. 「効果のある捕獲」作戦を立てる
→個体数を減らせる捕獲になっていますか？

アライグマ被害対策で重要なこと

Plan 相手を知り、作戦を練る

1. 外来種の何が問題かを理解する
→「3つのリスク」がある
2. なぜ、農作物被害が起こるのかを理解する
→「農作物＝動物の良い餌＝被害悪化の悪循環」
3. 「効果のある捕獲」作戦を立てる
→個体数を減らせる捕獲になっていますか？

1. 外来種の3つのリスク



アライグマ＝病原体のキャリア(保菌動物)
マダニを畑・屋根裏まで運ぶリスク

アライグマ増やさない
＝地域住民の安全・健康を守ることにもつながる



マダニ媒介の感染症で男性死亡 茨城 土浦

2019年10月24日 19時03分

茨城県土浦市で今月、73歳の男性がマダニが媒介する感染症にかかり、その後死亡していたことが分かりました。茨城県内でマダニが媒介する感染症で死者が出たのは初めてで、県は山林や草むらに入場十分注意するよう呼びかけています。

茨城県によりますと土浦市の73歳の男性が今月12日、手足の発疹を訴えその後40度近い高熱となり、近くの病院に入院して治療を受けていましたが今週21日に死亡しました。

男性は腹部にマダニにかまれたとみられる傷があり、県の衛生研究所が検査した結果、マダニが媒介する感染症の1つ「日本紅斑熱」に感染していたことが分かりました。

茨城県内でマダニが媒介する感染症で死者が出たのは初めてです。

アライグマ被害対策で重要なこと

Plan 相手を知り、作戦を練る

1. 外来種の何が問題かを理解する
→「3つのリスク」がある
2. なぜ、農作物被害が起こるのかを理解する
→「農作物＝動物の良い餌＝被害悪化の悪循環」
3. 「効果のある捕獲」作戦を立てる
→個体数を減らせる捕獲になっていますか？

Plan まずは相手を知り、作戦を練る

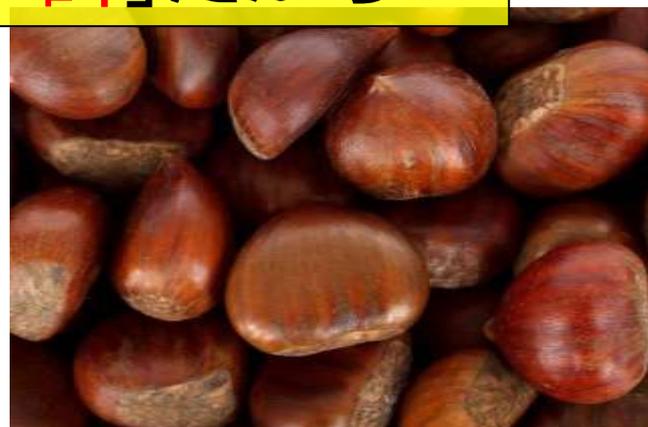
大きい・甘い・栄養満点



2. なぜ、農作物被害が起こるのか？



農作物が野生動物の「**良い餌**」だから！





IMAG0189

昼間の廃イチゴ置き場

農作物はエネルギー獲得効率の高い「餌」
加害されるのは当たり前という意識を！
餌があればどんどん増える、分布広がる

捨てる作物でも
アライグマはお構いなし！



論文
リンク

小坂井ほか(2018)農研機構研究報告中央農業研究センター第4号:15-27

食べる速さ→1訪問当たりの平均滞在時間と獲得エネルギー
アライグマ3.8個(21.6kcal)/分 → 9分で1日必要量の約1/4を獲得
ハクビシン6.0個(34.6kcal)/分 → 3分で "
最も長く滞在したハクビシン(14分)、**たった1度の訪問で**
1日必要量の**110%**を獲得...🐼

Plan まずは相手を知り、作戦を練る

捨てる農作物でも
アライグマはお構いなし！



論文へのリンク
Kozkai et al. (2019)
農研機構研究報告中央農業研究セン
ター第6号:23-33



「(1日の必要エネルギーの1/4に相当する)柿1個」を、たった1分で食べ切る
外来種ハクビシンもいます...

何頭・何日分の餌があるでしょうか...

Plan まずは相手を知り、作戦を練る

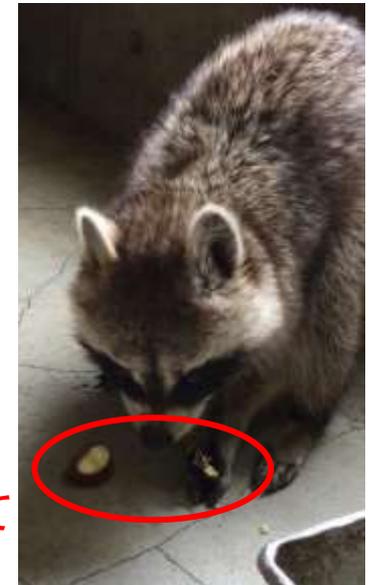
捨てる農作物でも
動物はお構いなし！

ハウスに侵入し、
地面に落ちているブドウを探る
やがて樹上の果実も...



ここにも

サツマイモだって



硬いクリだって
食べられます

調査協力: 日立市かみね動物園

Plan まずは相手を知り、作戦を練る



畑だけ対策をして満足していませんか??

農地だけの対策では...

捕獲をがんばっても...



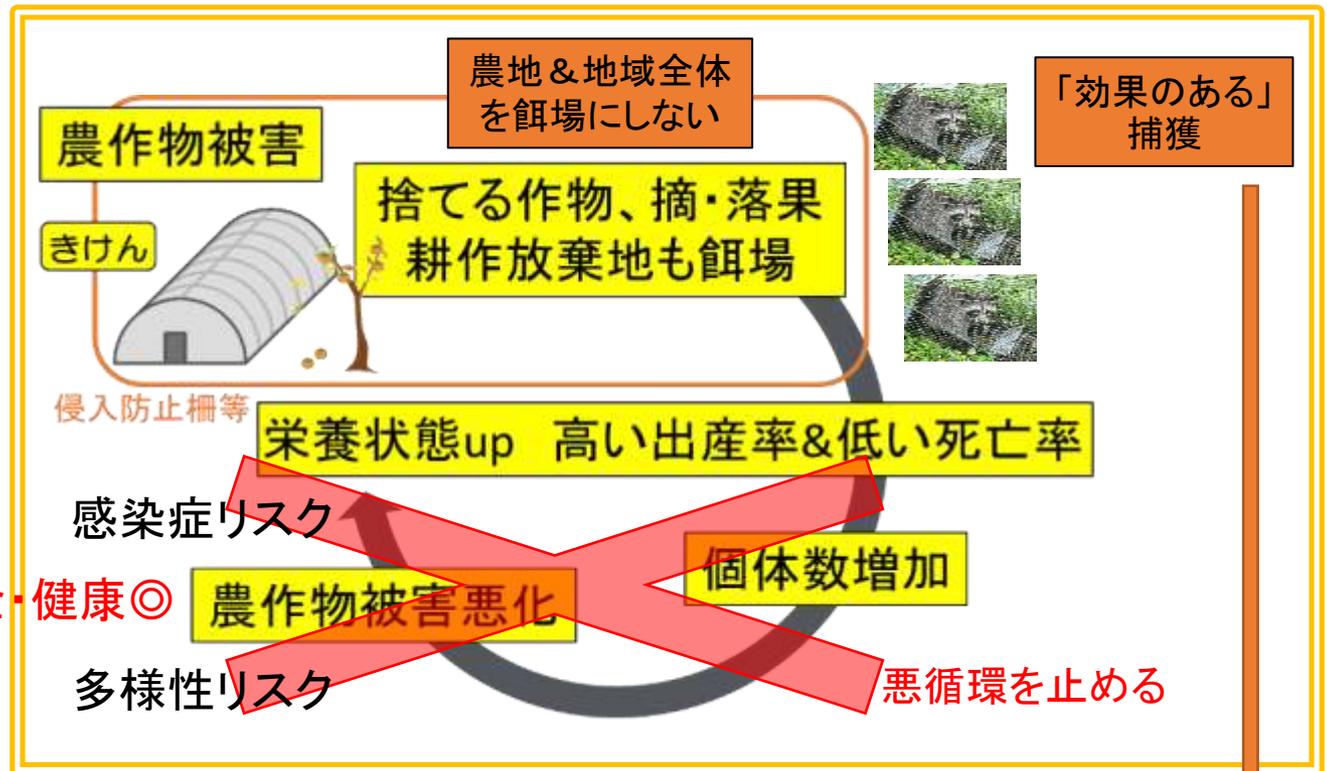
感染症リスクも

生物多様性リスクもさらに悪化...

増えてしまうおそれ

Plan まずは相手を知り、作戦を練る

被害が起こる理由が分かれば、実施すべき対策が分かる
& 外来種では「効果のある捕獲」が大事



効果のある捕獲とは・・・？

Plan 相手を知り、作戦を練る

1. 外来種の何が問題か？

→3つのリスクがある

2. なぜ、農作物被害が起こるのか？

→「農作物＝動物の良い餌＝被害悪化の悪循環」

3. 「効果のある捕獲」作戦を立てる

→個体数を減らせる

捕獲になっていますか？

効果のある捕獲をしないと
農作物被害を出し続ける
感染症等の市民の安全・
健康のリスク減らない

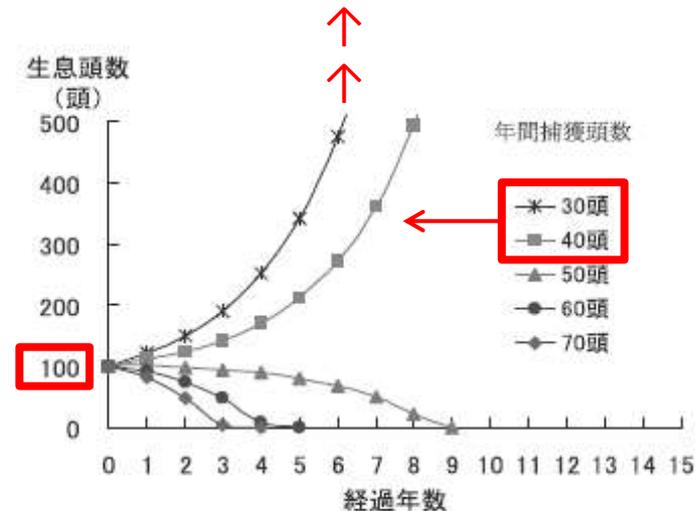


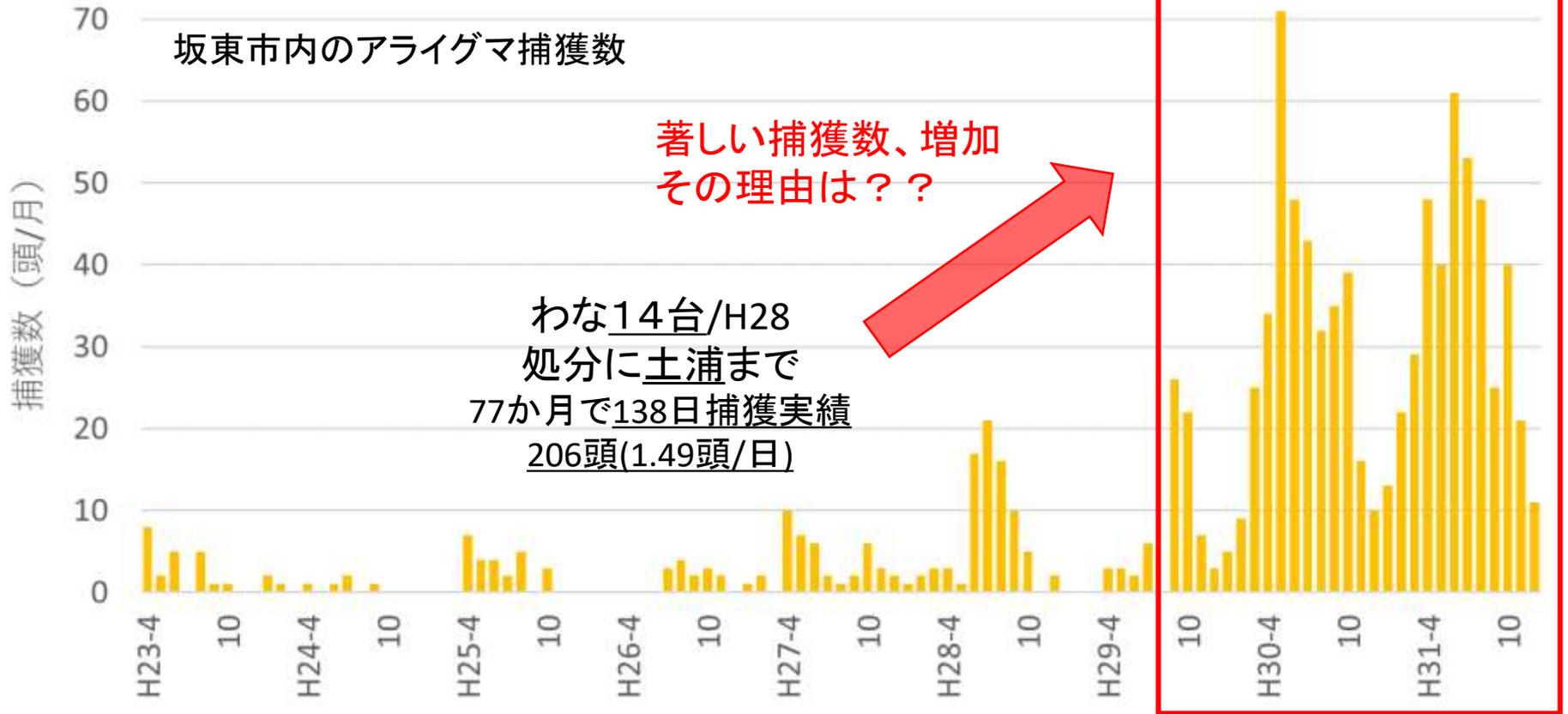
図2 年間捕獲頭数に応じたアライグマの個体数変化の予測
(初期個体数を100と仮定した場合)

Plan まずは相手を知り、作戦を練る

効果のある捕獲作戦に必要なもの①

→捕獲体制の充実

わな70台/H30
33か月で279日捕獲実績
833頭(2.35頭/日)



捕獲体制についての詳細、捕獲効率向上の理由は、後半の

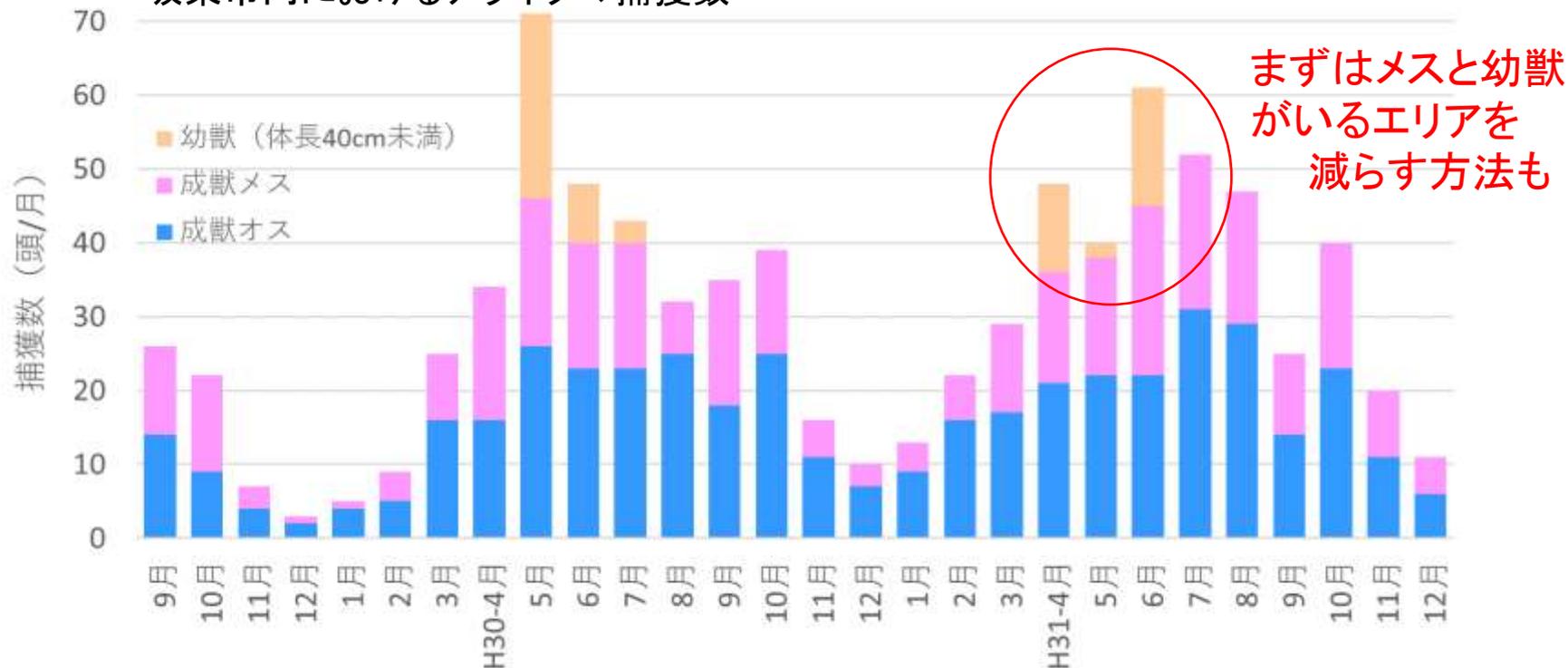
Do 対策実行(坂東市の効率の高い捕獲体制を例に) で詳しく説明

Plan まずは相手を知り、作戦を練る

効果のある捕獲に必要なもの②

成/幼獣・性別・わな貸出の記録 → 捕獲を重点的に行うべき地域等が分かる

坂東市内におけるアライグマ捕獲数



| 年度 | わな貸出数 | 貸し出した人数 | のべわな日数 | アライグマ捕獲数 | 捕獲効率・CPUE (頭/100わな日) |
|----------|-------|---------|--------|----------|----------------------|
| 2018/H30 | 70台 | 約137名 | 15387 | 259 | 1.68 |

CPUEの推移から捕獲効果を評価できる↑

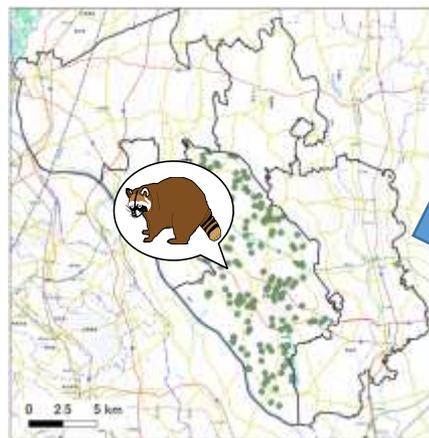
捕獲実績0の人が約50名

捕獲を見込めないわなの回収 → 効率的な運用も重要

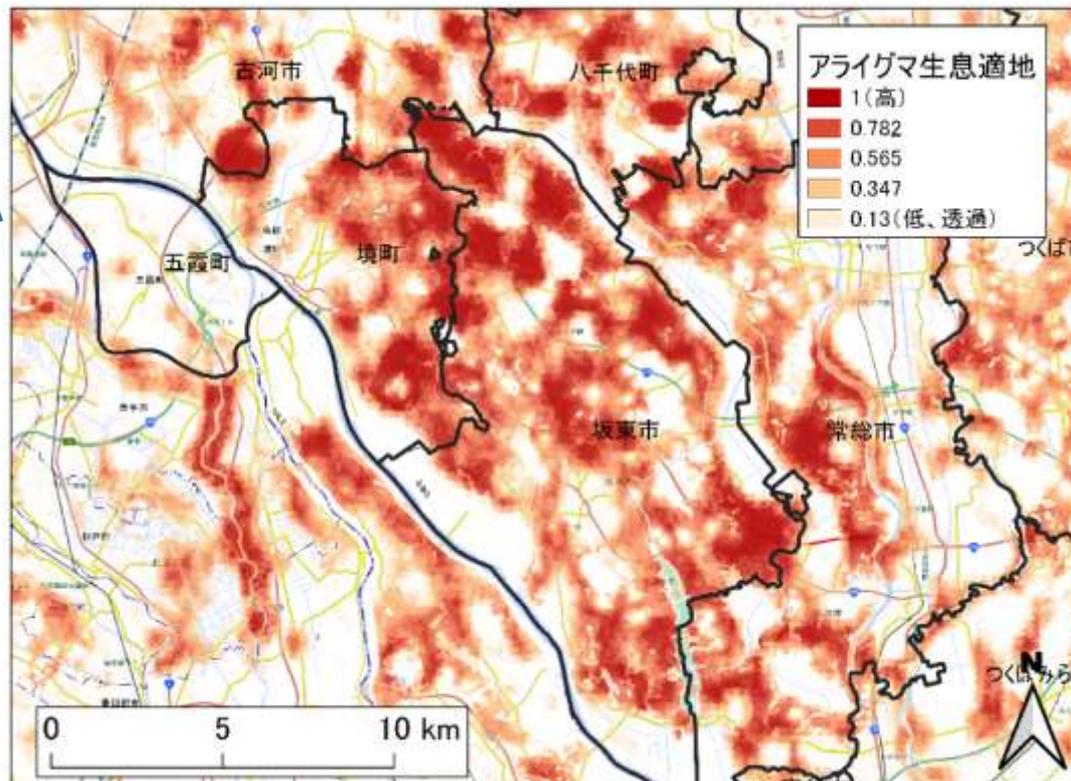
効果のある捕獲に必要なもの③

詳細な捕獲地点→アライグマが捕まりやすい環境が分かる

「他人事」ではありません！！



捕獲情報提供: 坂東市



| variable | 寄与率 |
|----------|------|
| 土地利用の複雑さ | 55.6 |
| 世帯密度 | 17.5 |
| 樹園地からの距離 | 16.5 |
| 河川からの距離 | 6.0 |
| 草地からの距離 | 4.4 |

捕獲有無の情報から推定したアライグマの生息適地
赤色ほど確率が高い(マクセント解析にて)
* 坂東市内の情報から近隣市町村も含めて解析

アライグマ被害対策で重要なこと

Plan 相手を知り、作戦を練る

1. 外来種の何が問題かを理解する
→「3つのリスク」がある
2. なぜ、農作物被害が起こるのかを理解する
→「農作物＝動物の良い餌＝被害悪化の悪循環」
3. 「効果のある捕獲」作戦を立てる
→個体数を減らせる捕獲になっていますか？